

令和5年度 都城市立山田小学校 学校運営協議会評価報告書

4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要す

本年度の重点目標 〈 確かな学力の育成 豊かな心の育成 健康教育の推進 ふるさと教育 〉

指導項目	重点評価内容	学校の自己評価結果コメント	自己評価	委員評価	学校関係者評価コメント
知	<p>確かな学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 4 + 4のチェックポイントによる授業改善と「学びの確認」による学力の向上 タブレットの活用等による個別に応じた学びの深化 図書館サポーターと連携した読書活動を通じた読解力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科の単元テストの平均は84.8点(74点~93点)算数科の平均は81.5点(73点~87点)だった。また、個人差や学年差も見られた。12月に行われるCRTテストの結果の分析を行い、劣っている領域や伸ばす必要がある力を把握し手立てを講じていく。 職員研修において、ICT(ノートパソコン)を活用した「分かる・できる授業」を目指し、授業改善を行った。発達段階に応じて技能の習得に差があるが、児童全員が自分のパソコンを扱うことができる。 4月から11月末までの図書貸出冊数は、本年度8267冊であり、前年度の4132冊を大きく上回った。 	3.2	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストの平均点は高いと感じます。また、児童さん全員が個々にPCを扱えるのは、先生方の研修や研究、連携が素晴らしいのだと思います。そして、図書の貸出冊数が前年度の倍と大幅に増えたのは凄いことです。読解力につながると思います。 「分かる、できる」授業を目指した授業改善で、先生方の授業への変容と児童の学力の向上につながることを期待しています。 図書貸出冊数が大幅に増えたことは色々な取組の成果だと思います。どのような仕掛けをしたのか広げただけだと思えます。 単元テストの平均が昨年を下回った分析と対応に期待したい。 図書貸出冊数が前年度を大きく上回ったのはいい事だと思います。 単元テストの平均点は高く見受けられるが、点数の幅に差が見られるように思う。ICTをもっと活用し、学力の底上げが今後の課題と思う。 図書貸出冊数の増加は大変良い。コーディネーターの工夫で子供達の読書意欲が高まったようだ。 学力の底上げは大変でしょうが、分析して手立てを講じられた後の変化を期待します。読書活動は倍に増えてほしいと思います。 本に触れることはとてもいいことだと思います。読解力にもつながり、ただ読むだけでなく、楽しさも味わい質も高めてほしい。
徳	<p>豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> あいさつ指導の徹底と相手を思いやる心の育成 「小さいうちに大きく動く」をモットーとした早期発見、早期解決 家庭や関係機関との連携を図り教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の立場に立った思いやりのある言動を行うことができる児童がほとんどである。しかし、相手の気持ちを考えず相手を傷つけてしまう言動がたまに見られることもある。 アンケートや個別の教育相談、いじめ・不登校対策委員会をほぼ毎月実施し、生徒指導主事を中心として全職員で問題の早期発見・解決に努めることができた。 特別支援教育推進委員会を定期的に開催し、特別な支援を要する児童の情報の共有と共通理解、具体的な対策を協議することができた。 	3.3	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの児童さんが思いやりのある言動をされているのは、先生方が德育にも重点を置かれている証しと感じます。アンケートや個別相談を充実していて大変安心しました。 いじめや不登校、その他生徒指導に関わる内容を全職員で共通理解しながら進めていくことはとても大切なことなので、素晴らしい実践をしていると思います。 特別な支援を要する児童の対応については、今後ますます重要になってくるので、引き続き具体的な対策を講じていく必要があると思います。 相手を傷つけてしまう言動については粘り強く対応を続けて欲しい。全職員での問題の早期発見、解決の取り組みは引き続きお願いします。 特別な支援への丁寧な対応の継続をお願いします。 とても優しく、素直な児童が多いと思う。多感な時期の高学年の言動は、不登校の原因にもなりかねないので、家庭と学校の連携は不可欠である。また、多様性といわれる時代に、学校側が児童にいかにか寄り添えるかは今後の課題ではないだろうか。 先生方の目配り、気配りが反映されて結果につながっていると思います。 あいさつは元気もあり気持ちいいです。 学校、家庭と連携を続けてほしい。
体	<p>健康教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 立腰指導の徹底と外遊びの推奨 早寝・早起き、朝ご飯の推進と小中連携でのメディアコントロールへの取組 養護教諭や栄養教諭と連携した健康なからだづくりへの意識付け 	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストにおいては、昨年度の数値を上回る項目とそうでない項目があった。昨年度までのコロナ禍が要因と考えられる項目もあり、昼休みの外遊びの推奨や体育授業における工夫を行っている。 小中一貫でメディアコントロール週間を設け、家庭とともにメディア使用について意識して取り組むことができた。また、「メディアのきまり」を作成し、使用時間やスマホの管理等について、改善が見られる児童や家庭が増えている。 食べる姿勢やマナーについては、各学級で毎日指導することで向上している。極端に食べる量が少ない児童や偏食傾向の児童への手立てが必要である。 	3.0	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 中学校と家庭と連携して、メディアコントロールに取り組まれていて素晴らしいと感じました。また、養護の先生、栄養教諭の先生との連携は、基本的な生活習慣の大切さが各家庭にも伝わり、様々な改善につながっていくと思います。 メディア使用への啓発は今後の課題だと思います。特に、スマホについては、保護者への意識を高めていく必要があると思います。科学的根拠に基づいた情報を事あるごとに流していくことの重要性を考えます。 体力向上に向けた引き続きの工夫に期待します。 メディアコントロールの取り組みは大変ですが、根気強く対応をお願いします。 食べる姿勢やマナーについては、保護者も一緒に時間を掛けて取り組んで欲しい。 コロナ禍での運動不足は全国的な問題であるが、同校は昼休みに先生方が一緒に遊んだり、また、広い運動場は子供達の体力向上に最適な環境である。 メディアの利用は抑制するのは困難であるが、家庭との連携で適正にしていけると尚良い。食事に関しても、家庭内のしつけ以外でも、学校で指導してもらえると大変ありがたい。 メディアについては、学校との連携を図り、家庭での意識づけも大事だと思います。 家庭でのあり方(姿勢、マナー、偏食等)の手立てもひとつは必要なのは。
ふるさと教育	<ul style="list-style-type: none"> サマイ学や身近な教材、資料を通じた地域のよさを知る活動の取組 各種情報発信に努め、学校運営協議会など地域と連携した取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画をもとに、生活科や総合的な学習の時間を中心として地域の人材や素材を生かした体験的な学習を行うことができた。また、150周年記念事業として150mゾーン流しや気球搭乗体験、せんだんの木への記念手形押しなどの体験活動を行った。 <ul style="list-style-type: none"> 1、2年生の給食センター見学、昔の遊び体験 3年生の芋植え、芋掘り 4年生のサマイ学 4、5年生の田植え、稲刈り 5、6年生の裁縫(ミシン操作) ラブレタープロジェクト(紫舟さんによる書の指導)[3~6年] 150周年記念式典[全校] ドリーム集会(浅井智菜美さんによる楽器演奏)[全校] 	4.0	3.9	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々や素材を活用した体験的な学習を通して、児童さんたちは地域の価値を理解し、自身のルーツやアンデンティティを認識することにつながると感じます。大変素晴らしい取り組みをされていると感じました。 150周年記念事業に向けて、家庭や地域と連携しながら進められたことは素晴らしいと思います。 各学年の取り組み、150周年記念事業を通じて、地域との連携が図られ、また、地域のよさを十分に知ることができたと思います。 今年度はまさに地域を巻き込んだ体験学習が出来たと思う。今後も「学校と家庭+地域」と厚みある体制で児童の情操教育につながると良い。 150周年記念事業で、地域との関わりが深まって良かったと感じました。 コロナも5類になり、活動も制限されず多くの事を体験でき、又、地域を巻き込んだ活動に地域の方も喜ばれ良かった。 年賀状に涙して喜ばれたと元気の源になって良かったと思います。